

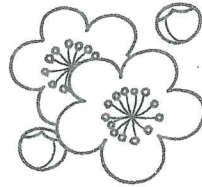
えんだより

NO.12

こぐま

2019. 3月7日 (木)

社会福祉法人多摩福祉会
こぐま保育園
多摩市永山3-5



ご卒園

おめでとうございます

どんだんさん 元気でね!



さよなら

あんころもち

またきなこ

梅の花の香があちこちに漂って、春を感じさせてくれています。

こぐま保育園でも3月16日の卒園式を控え、どんだんさんたちは、荒馬踊りやわらべうたの練習を張り切って取り組んでいます。踊りの先頭だったりわらべうたの楽器だったり、一人一人がどこで輝きたいか話し合いを重ねているところです。育ち合ってきた仲間と夫々の良い所を認め合い、自信に満ちた自分大好きな気持ちをさらに大きく膨らませてこぐまを巣立ちます。

ぐんぐんさんは保育園児代表として式に参加します。お祝いのわらべうたを歌っていただきます。どんだんさんへのお祝いの贈り物作りをしながら、もうすぐ自分達がどんだんになるんだという期待をふくらませています。

職員も昼休みを利用してお祝いのわらべうたを練習しています。

どんだんの父母のみなさま

六年間本当におつかれさまでした。そしておめでとうございます。



絵本は心のへその緒



ぐりとぐら・おおきなかぶ・三びきのやぎのがらがらどん等の絵本を世に送り出した松井直さん(92)が“絵本はへその緒”を刊行しました。乳児に絵本を語り

かけることは子守うたと同じ”言葉の体験になる”といひます。赤ちゃんに絵本がわかるのかの質問には“それは心の問題。こどもは耳から言葉が入ってくるのと同時に言葉の意味ではなく、気持ちが通じる。だから大人が子どもにどういふ気持ちで語っているのかが大事だと解きます。絵本は子どもに読ませる本ではなく、大人が子どもに読んであげるといひます。絵本の最も大切な役割は“共に居る事”と考えるからだとのこと。作者の名前は覚えていなくても、誰に読んでもらったかは覚えている。読んだときの喜びや楽しみが大きいほど、こどものなかに生涯残り続けると語ります。

みなさんは“いやいやえん”という本をご存知ですか。何でもかんでもいやいやと一筋では行かない物語です。松井さんは“いい子でないってことは、とっても大切なこと。良い子でないって事が良いことだともいひます。子どもが本当に何を感じているか、大人にはなかなかわからない。子どもは言葉を受け止めて、想像もしなかった色々なことを感じる。理屈じゃない。子どもの想像しているイメージの世界を大人が感じ取って、喜びや悲しみを共にし、時にはぶつかって、色々な経験をしていくことが大切なんじゃないでしょうかとしめくくっています。

(朝日新聞より抜粋)

今日の夜 寝る前にいっさつの絵本を読んであげる時間がとれるといいですね。

3月の予定

- 1
- 4・5・11
- 6・13
- 7
- 8
- 12・13・14
- 16
- 20
- 22
- 25～
- 27

ひなまつり

身体測定

講師によるわらべうた

避難訓練

誕生会 あらうま

卒園式練習

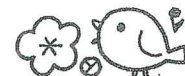
卒園式 弁当日

新入園児 健診

あらうまお披露目会

新年度保育開始

りんごのまるかじり (5歳・三上歯科医)



新年度説明会のお知らせ

3月20日 7:00～行います

お忙しい時期ですが、皆様のご参加をお待ちしております

